

第10回 岩手県中学生選抜サッカー大会 《 試合結果 》 平成18年11月18日～19日

☆予選リーグ 《予選リーグ→勝ち点は、勝ち3点、引分1点、負け0点とする》

Aブロック (高田松原野外活動センター A面)

	沿岸北	岩手	県中央	盛岡北	勝	負	引	得	失	差	勝点	順位
沿岸北		● (0-2)	● (0-1)	● (1-2)	0	3	0	1	5	-4	0	4
岩手	○ (2-0)		● (0-1)	△ (0-0)	1	1	1	2	1	1	4	3
県中央	○ (1-0)	○ (1-0)		△ (1-1)	2	0	1	3	1	2	7	1
盛岡北	○ (2-1)	△ (0-0)	△ (1-1)		1	0	2	3	2	1	5	2

*1位と2位は、得失点差による。

Bブロック (高田松原野外活動センター B面)

	盛岡南	県北	県南	沿岸南	勝	負	引	得	失	差	勝点	順位
盛岡南		△ (0-0)	● (0-2)	○ (1-0)	1	1	1	1	2	-1	4	3
県北	△ (0-0)		● (2-4)	● (0-3)	0	2	1	2	7	-5	1	4
県南	○ (2-0)	○ (4-2)		△ (0-0)	2	0	1	6	2	4	7	1
沿岸南	● (0-1)	○ (3-0)	△ (0-0)		1	1	1	3	1	2	4	2

☆順位決定戦

Aブロック1位《 県中央地区 》 (2-1) Bブロック1位《 県南地区 》
 Aブロック2位《 盛岡北地区 》 (0-2) Bブロック2位《 沿岸南地区 》
 Aブロック3位《 岩手地区 》 (1-4) Bブロック3位《 盛岡南地区 》
 Aブロック4位《 沿岸北地区 》 (3-0) Bブロック4位《 県北地区 》

☆最終順位

第1位 県中央地区 (4年ぶり3回目の優勝)
 第2位 県南地区
 第3位 沿岸南地区
 第4位 盛岡北地区
 第5位 盛岡南地区、
 第6位 岩手地区
 第7位 沿岸北地区
 第8位 県北地区

☆これまでの大会結果

回数	優勝地区	準優勝地区	第3位地区	開催地
第1回	盛岡北地区/岩手地区	—	沿岸地区	陸前高田市
第2回	雪のため、一日目30分×4試合、予選リーグのみ実施した。 二日目は、試合実施不可能と判断し大会を中止した。			水沢市
第3回	県中央地区	盛岡南地区	県南地区	盛岡市
第4回	盛岡北地区	県中央地区	盛岡南地区	陸前高田市
第5回	盛岡北地区	盛岡南地区	岩手地区/県中央地区	陸前高田市
第6回	県南地区/県中央地区	—	盛岡南地区	陸前高田市
第7回	沿岸南地区	盛岡南地区	県中央地区	陸前高田市
第8回	盛岡南地区	岩手地区	県南地区	陸前高田市
第9回	盛岡南地区	県中央地区	沿岸南地区	陸前高田市
第10回	県中央地区	県南地区	沿岸南地区	陸前高田市

☆大会全体について

1, 大会について

平成8年度までは、東西対抗戦として県内を東西に分けて、中1チームと中2チームで実施していたが、平成9年度から、各地区トレセンの取り組みと平行して、トレセン大会として実施。トレセンの地区を8地区に分けて行った。リーグ戦と順位戦で実施した。

2, これまでの大会と主な内容

この大会で、中学2年生約20名を選抜し、正月明けの関東遠征を行っている。

第1回大会は大雨の大会。しかし、指導者の熱意と選手の意気込みが大会の成功につながった。

第2回は、水沢に会場を移して芝生での大会と考えたが、あいにくの雪で初日のみ実施。

第3回は、盛岡に会場を移して実施。しかし、宿泊の関係や各地区の交流を図ることも考えて、第4回からは陸前高田市に会場を戻し、試合の他にトレーニングを導入して、参加選手の意識の向上を図った。第7回・第8回大会は、全体テーマを5月に確認し、各地区がこの大会までにトレセン活動を行いながら優秀な選手を選考して集まり、大会前には当日のトレーニング内容を知らせて、当日は、地区ごとにそのテーマに沿ってトレーニングをした後、試合を行うようにした。

第9回からは、これまでの取り組みを振り返り、トレーニングは各地区で行っているのでも、試合を中心に行うこととした。

3, 今大会から感じたこと

各選手は一生懸命にゲームに取り組んでいたし、指導者も選手の良いプレーを引き出そうとしていたように思われる。しかし、選手個々の基本的技術が十分に発揮されず、ボールを簡単に失うプレーが目につき、全体的にはゲーム全体が忙しく、あわただしい内容になっていた印象がある。

大きな課題は、

①プレッシャーの中でのプレーにミスが多い。

選手一人一人の技術面は、プレッシャーの少ない時のプレーはしっかりできるが、プレッシャーを受けると、その途端あわててしまい、ミスをしてしまう。

②オフ・ザ・ボールの動きが少ない。また、有効な動きができない。

ボールのない選手の動きが散漫で、サポートやカバーのポジションを取るのが遅く、結局連動した動きにならない。ボールを持った選手を孤立させてしまっている。

③パスミスが目立つ。(※キックミス)

フリーの状態でも味方にパスをきちんとできないことが多く見られた。

の三点をあげる。

技術的な課題は、これまでとあまり変わらないが、ゲームにおいて、ボールを持っていない選手の動きが他の選手との有効な関わりを持っていない印象があった。また、全体的に、自信を持ってプレーしている選手が少ない印象であった。さらに、楽しんでプレーしている選手も少ないように思われた。

改善するために、

①プレッシャーの中でのボールコントロールをしっかりできるトレーニングの積み重ねが必要。

②オフ・ザ・ボールの時に、何をするために何をするか。攻撃と守備に分けて選手に考えさせプレーさせる積み重ねが必要。自分で判断できる選手の育成。

③プレッシャーのないフリーの状態でのミスを少なくさせたい。普段の練習から、落ち着いた気持ちでプレーできるように選手を育てる必要がある。指導者の重要性（自ら自己反省を繰り返すこと）

の三点をあげる。

ゲームを見た方は、その他にも課題を感じられたかと思うが、まずはこれらのことについて、方法は様々あると思うので、指導者の方々には少し意識して取り組んでほしいと思う。

4, 指導者のあり方について

指導者には、気づいて自覚してほしい。

今回のような大会では、試合中のプレーに対して指導者が「ファウルだ」「オフサイド」等と言う声は全く聞こえない。それよりも「どうすればよいか」を選手にアドバイスしている事が目立つ。しかし、それが当たり前なのだ。どんな大会、どんな試合でも選手に良いプレーをしてほしいし、選手が良いプレーをする事が勝利につながっていく。審判の判定は、二の次なのである。試合をつまらなくしているのは、審判の判定に文句を言う指導者である。純粹にサッカーをしている選手に対して失礼極まりない指導者である。

指導者は「試合に勝つために、選手に勝たせるために良いプレーを引き出すコーチングをするのだ」という事を、3種年代の選手を育てる指導者として自覚することが必要です。